



© Eisuke Miyoshi

第42回となるミュージック・イン・スタイルでは、思い出の深い曲を選びました。ブラームス「ピアノ五重奏曲へ短調」は、私のフィンランド・デビューの曲で、のちに指揮者となったオッコ・カムさんが第1ヴァイオリンを務めたスホネン・カルテットとの共演でした。1ヶ月かけてリハーサルとレッスンに通った日々を思い出します。ドヴォルザーク「ピアノ五重奏曲第2番イ長調」は、先年ドヴォルザークが作曲していた家、部屋を訪れたので、とても親しみをもてる曲となりました。ジャパン・ストリング・クワルテットの方々は、長年演奏を聴いているのですが、今回が初めての共演となり楽しみです。

岩崎 淑

Profile

岩崎 淑 [いわさき・しゆく、ピアノ] Shuku Iwasaki, Piano

倉敷市出身。桐朋学園大学、ハートフォード大学、ジュリアード音楽院、キジアーナ音楽院で、井口秋子、井口基成、J.ラタイナ、A.ベネデッティ・ミケランジェリ、S.ロレンツィ、I.フロインドリッヒの各氏に師事。1967年ミュンヘン国際音楽コンクール二重奏部門第3位。68年ブダペスト、70年チャイコフスキー国際音楽コンクールで最優秀伴奏者賞受賞。以来、J.シュタルケル、P.トルトゥリエ、P.-L.グラーフ、I.パールマン、A.ナヴァラ、I.ギトリス、U.ウーギ、M.マイスキー、M.ジャンドラなど著名音楽家と共演、録音多数。76年より「岩崎淑ミュージック・イン・スタイル」主宰。89年（平成元年）第44回芸術祭賞を受賞。79年より18年間「沖縄ムーンビーチ・ミュージック・キャンプ&フェスティバル」、97年より「沖縄国際音楽祭」を第の岩崎と企画開催。

現在、イタリアのヴァルセジウム・ムジカとカントゥ国際音楽コンクール審査員、高松国際ピアノコンクールでは審査員長を務める。2008年3月まで桐朋学園大学院大学教授のほか、これまでに尚美学園大学、武庫川女子大学、くらしき作陽音楽大学客員教授を務める。著書に『音楽さえあれば』（岩崎共著／吉備人出版）、『アンサンブルのよろこび』『ピアニストの毎日の基礎練習帳』に加え、『楽興の瞬間』（2017年12月最新刊、以上、春秋社刊）がある。

2005年福武文化賞、99年ノルウェー王国功労勲章叙勲。2014年1月第24回新日鉄住金音楽賞特別賞、同年2月第26回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門特別賞を受賞し、2018年1月には第76回山陽新聞賞[文化功労]で表彰された。倉敷市文化振興財団アドバイザー。室内楽グループ「カロローザ」主宰。日本グリーク協会会長、国際音楽祭ヤング・プラハ日本実行委員会会長。

ジャパン・ストリング・クワルテット Japan String Quartet



1994年、国際交流基金による日本文化紹介派遣事業の一環として「クボ・クワルテット」はフランスと中近東を巡演、各地で好評を博した。この成果をもとに翌1995年「ジャパン・ストリング・クワルテット」を結成。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲の全曲演奏を目的に掲げて研鑽を積み、1995年から3年間計6回にわたり東京・津田ホールで定期公演を行い、NHKで放映されるなど多くの室内楽ファンの注目を集めた。2000年より再びベートーヴェンの魅力の新しい発見を目指し、弦楽四重奏曲全曲演奏に挑み始めた。この活動を主軸に、他の作曲家の弦楽四重奏の名作にも取り組むなど意欲的な活動を続けている。

久保 陽子 [くぼ・ようこ／第1ヴァイオリン] Yoko Kubo, 1st Violin

3歳より父の手ほどきを受け、その後、折田泉、村山信吉、ジャンヌ・イスナール、齋藤秀雄に師事。桐朋学園女子高等学校音楽科卒業と同時に1962年チャイコフスキー国際コンクール第3位受賞。パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール、ロン・ティボー国際コンクールにてそれぞれ第2位入賞後、巨匠ヨーゼフ・シゲティに師事。クルチ国際コンクール第1位。弘中孝と共に桐五重奏団、久保陽子トリオを主宰するなど室内楽奏者としても活躍中。これまでにCD『J. S. バッハ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ全6曲』、『パガニーニ：カプリース全24曲』他をリリース、いずれも高い評価を得ている。2011年3月まで東京音楽大学教授。近年は継続的に無伴奏作品演奏に取り組む他、将来性のある若手演奏家たちとのデュオ、アンサンブルシリーズを、東京を中心に開催するなど、後進の育成にも力を注いでいる。

久合田 緑 [くごた・みどり／第2ヴァイオリン] Midori Kugota, 2nd Violin

東京藝術大学付属高校を経て、同大学在学中にJ. D. ロックフェラー3世財団などのスカラシップを得て渡米。ジュリアード音楽院、インディアナ大学で学ぶ。同大学卒業後帰国し、日本テレマン・アンサンブルのソリストとして活動した後、「久合田緑弦楽四重奏団」を15年間主宰。東儀祐二、鷺見三郎、服部豊子、I. ガラミアン、J. ギンゴールド、F. グッリ、I. スターンの各氏に師事。これまでに相愛大学教授、東京藝術大学講師、京都市立芸術大学教授、大阪音楽大学教授を歴任。現在、京都市立芸大名誉教授。現在、JSQの活動のほか、内外でソリストとしても活動を続けている。

菅沼 準二 [すがぬま・じゅんじ／ヴィオラ] Junji Suganuma, Viola

ヴァイオリンを岩崎洋三、ヴィオラを井上武雄に師事。東京藝術大学専攻科修了。巖本真理弦楽四重奏団に長く在籍、ヴィオラ奏者としての力量を認められる。第7回毎日芸術賞、芸術祭賞、レコードアカデミー賞、第22回芸術選奨文部大臣賞、モービル音楽賞、その他受賞多数。1976年から90年までNHK交響楽団首席ヴィオラ奏者を務める。89年第9回有馬賞受賞。現在、東京藝術大学名誉教授、沖縄県立芸術大学客員教授、オホーツク音楽祭in紋別ディレクター。

岩崎 洸 [いわさき・こう／チェロ] Ko Iwasaki, Violoncello

11歳より齋藤秀雄に師事。桐朋学園高校を経て、アメリカのジュリアード音楽院に留学。レオナード・ローズ、ハーヴィー・シャピロ、パブロ・カザルスに学ぶ。ヤング・コンサート・アーティスト・オーディションをはじめとし、カサド、チャイコフスキーなどの国際コンクールに上位入賞。沖縄ムーン・ビーチ・ミュージックキャンプ&フェスティバルのディレクター、倉敷市文化振興財団音楽プロデューサーなどを務めた。現在、桐朋学園大学特任教授及び大阪音楽大学客員教授。